

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

国家であろうと、企業体であろうと個人であろうと、衰退は起らないではすまない。

だが、①ミもフタもないことを言うと、興隆したから衰退もするので、興隆期をもたなかったものには衰退も起りえないのである。それゆえに衰退は、盛者にのみ許された特権である。

しかし、誰だって衰退はしたくない。とはいえ A というものはある。だから必衰でもあるのだが、それでもなるべく先にのぼりたいし、あわよくばもう一度、盛者になれないものかと考えるのは人情である。そして、長命を享受した国家はそのすべてが、興隆と衰退の波を幾度もくり返すことのできた国家であったこと、歴史が証明してくれている。

では、なぜ衰退は起るのか、だが、『平家物語』はその要因を、盛者の奢りにあつたとした。西洋史でも、これを要因とする歴史家が多い。しかし私は、これは要因の一つではあるかもしれないが、主たる要因ではないと思っている。なぜなら、中世・ルネッサンス時代の大国であつたヴェネツィア共和国は、盛者の奢りにひたることのまっただくなかつた国家だったが、それでもなお衰退を避けることはできなかった。

衰退の主たる要因は、盛者の奢りなどという、注意さえすれば避けることも可能なものでなく、②もつとどうしようもない必然的なものでなければ説得力はもてないのではないか。

私には、興隆の要因であつたものがある時期を境にして衰退の要因に変わるからだと思えてならない。

そして、なぜこのような現象が起るかという、それは、競争の次元が変化したことによつて、それまでの成功の要因であつたもののほとんどすべてが、否定的な足枷あしかせに変わってしまうからである。

こう考えると、盛者必衰がなぜ歴史の理ことわりとなるかも、説明可能になってくるのではないか。なぜなら、人間は、これまでうまく行ってきたことを、だからなおさら、それを変える必要が生じてきたとわかつてもおお、なかなか変える勇氣をもてないものだからである。

それゆえに、時代の変化を察知するだけでは充分でない。今日の成功の因ではあつても明日には足枷あしかせになるそれらを、夜のうちにはずしてしまえるかどうかが課題ではないかと思う。

歴史上長命を享受した国家は、これができた国なのだ。ヴェネツィア、しかり、古代のローマ、しかり。

ところが、一時は繁栄を誇り大国として君臨したのに、意外と短命に終つた国も多い。フィレンツェ、オランダ、スペイン……。

これらの国々は、興隆の要因であつたものがある時期を境にして衰退の要因に変わるのを阻止できなかった国である。競争の次元が変りつつあるのに、それまでの成功が忘れられなくて自らを変える勇氣がもてず、重い足枷あしかせになつてはじめて対策を立てたがもはや遅し、であつた国々なのだ。

もし、歴史上のこれらの先例の後を追いたくなければ、時代の変化に応じてこちらも変らなくてはならない。ローマとヴェネツィアの例は、われわれに次のことを教えてくれる。

第一に、変るといっても、自分自身の体質に合ったやり方を変えること。③必要を越えた無理は、病気を呼び死につながる。

第二だが、改革は体力のあるうちに為されねば有効でないこと。

変革と呼ぼうが改革と名づけようが、このようなことを実行するのに無理がともなわなければならない。ただしこれは、④必要な無理である。必要な無理を許すのは、体力だけしかない。

体力のまだあるうちに改革を先どりしておけば、B という大波をのりこえることもできるのだ。ヴェネツィアもローマも、それをやった。ただ、それをできなくなったとき、つまり改革が後手後手にまわるようになってしまったとき、一千年の寿命を誇つたこの二国も衰退しはじめたのだ。

マキアヴェッリも言っている。「誰だって、誤りを犯したいと望んで誤りを犯すわけではない。ただ、⑤晴天の日に、翌日には雨が降るとは考えないだけである」

雨傘の用意は、イギリス紳士の特許ではないのである。

〔注〕 マキアヴェッリ … イタリアのフィレンツェで十五世紀から十六世紀にかけて活躍した政治家。

問一 傍線部①はどのような意味合いで言われたものか。次から最も適当なものを一つ選び記号で答えなさい。
ア わかりきったことを露骨に言うだけで、愛想もないが
イ たいい意味もない空疎なことをあえて言えば
ウ あまりにも自明で、言うのもむなしが
エ 隠された事実を正直にぶちまけるなら

問二 Aに当てはまる語句を次から選び記号で答えなさい。

- ア 宿題 イ 運命 ウ 寿命
エ 生命 オ 短命

問三 傍線部②に「もつとどうしようもない必然的なものでなければ説得力はもてないのではないか」とあるが、「盛者の奢り」という要因が説得力を欠くのは、どういう事象があるからか。具体的に答えなさい。

問四 傍線部③「必要を越えた無理」、④「必要な無理」とあるが、それぞれの内容の言いかえとして適当なものを、次の中から一つずつ選び記号で答えなさい。

- ア 自然な改革
イ 歴史の理に応じた変革
ウ いきのびるための変革
エ 体質にあわない変革
オ 奢りをとまわらない変革

問五 Bの中に当てはまる語句を、本文中の言葉を利用して八字で答えなさい。

問六 傍線部⑤は、人間のどのような性癖を表したものか。次から最も適当なものを一つ選び記号で答えなさい。

- ア 人間は夢のようなことばかりを追い求め、足を地につけない。
イ 人間は先ゆきのことよりも、現在を必死に生きることしか考えない。
ウ 人間はあいまいな偶然よりも、確かな必然の方をしか考えない。
エ 人間はえてして現状に甘んじて、未来を見通すことができない。

問七 文章を三つの段落に分ける場合、

- ① どこで切るのが適当か。第二、第三段落の初め各五字で答えなさい。(句読点を含む)
② その各段落は、文章全体の中でどんな役割をもっているか。それぞれ次の中から選び記号で答えなさい。
ア 話題についての結論的見解
イ 話題の摸索としぼり込み
ウ 話題の提示
エ 話題にしていることの原因の考察
オ 話題のしめくりとしての引用

二 次の傍線部のカタカナを漢字に漢字をひらがなに直しなさい。

- | | | |
|--------------|---------------|--------------|
| ① セツレツな文章 | ② 樹脂はカソセイがある | ③ リヨウフウが吹く |
| ④ 肉のクンセイ | ⑤ ヘイシユの免許をとる | ⑥ 友のケイジを祝う |
| ⑦ 心のキンセンに触れる | ⑧ ユウシユウに閉ざされる | ⑨ シュトウのあと |
| ⑩ キュウクツな服 | ⑪ ユウシを迎える | ⑫ 功績をケンシヨウする |
| ⑬ 恩賜賞を授ける | ⑭ 要点を抄録する | ⑮ 弾劾裁判を要求する |
| ⑯ 自著を謹呈する | ⑰ 事故で急逝された | |